

「痴呆」に替わる用語に関するご意見の募集の結果について

平成16年11月
厚生労働省老健局計画課
痴呆対策推進室

「痴呆」という用語には侮蔑的な意味合いが含まれていること等から、これに替わる用語を検討するとともに、併せて、「痴呆」にかかる誤解や偏見をなくす一助となることを目的として、『「痴呆」に替わる用語に関する検討会』を設置し、検討を進めています。

「痴呆」に替わる用語については、広く国民や関係者の方々のご意見やお考えを伺いながら結論を得ていくべきものとの考えから、9月13日から10月29日までご意見を募集したところです。

お寄せいただいたご意見について、別紙のとおり取りまとめましたのでお知らせいたします。この結果を検討会での議論に活用させていただきます。

今回ご意見をお寄せいただきました方のご協力に厚くお礼申し上げます。

「痴呆」に替わる用語に関する意見募集結果

1. 募集の概要

募集期間

平成16年9月13日から10月29日まで。

募集方法

厚生労働省ホームページの「パブリックコメント・意見募集案内」に情報を掲載するとともに、高齢者福祉関係団体に情報の提供及び会報等による周知を依頼した。また、募集期間内に開催された介護関係シンポジウム会場等で調査票を配布・回収を行った。

応募状況

応募総数 6,333件

数値は四捨五入のため、内訳の計と「合計」が合わない場合がある。

2 . 結果の概要

応募者の状況

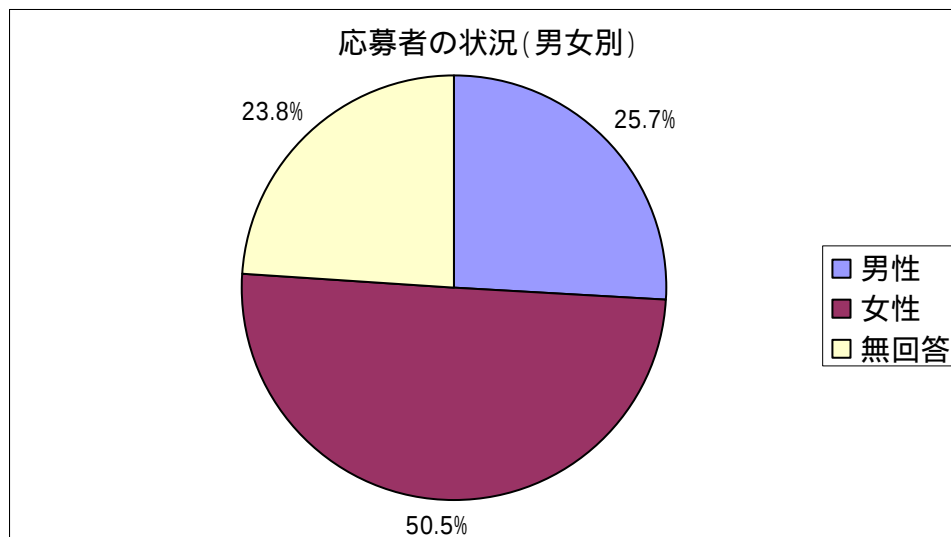
総応募数 6,333 件のうち性別、年齢、住所についてそれぞれ集計したところ、次のとおりであった。

1) 性別

応募者の性別は、男性 1,629 件 (25.7%)、女性 3,198 件 (50.5%)、無回答 1,506 件 (23.8%) であった。

1) 応募者の状況 (男女別)

性別	件数	割合
男性	1629	25.7%
女性	3198	50.5%
無回答	1506	23.8%
合計	6333	100.0%

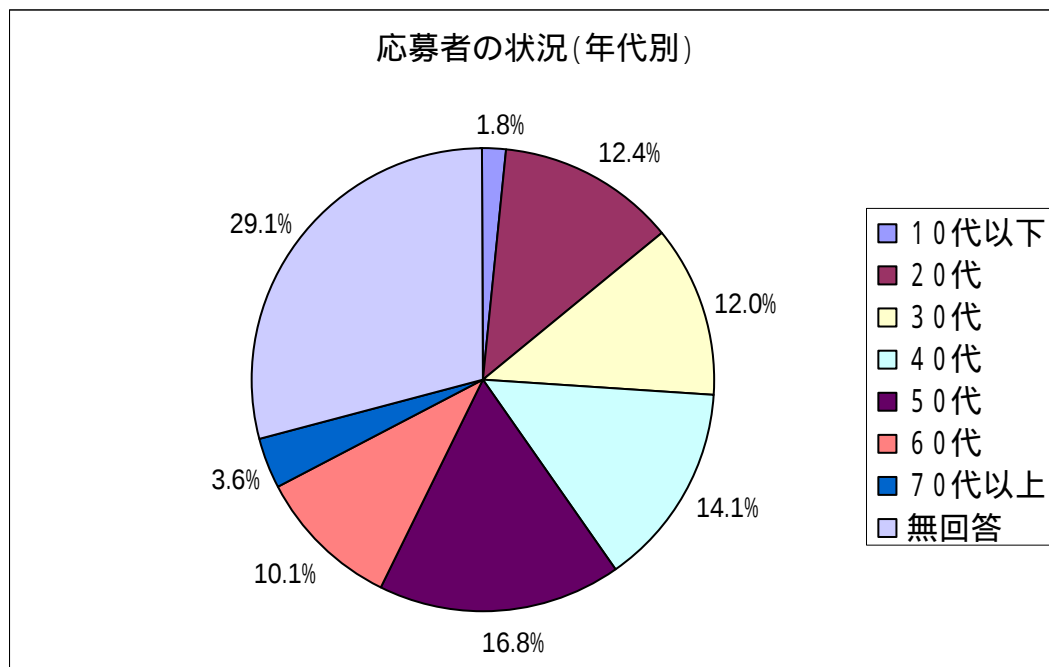


2) 年齢別

年齢について記載があった中では、50代 1,064 件 (16.8%) が最も多く、以下、40代 896 件 (14.1%)、20代 785 件 (12.4%)、30代 760 件 (12.0%) と続いている。

2) 応募者の状況(年代別)

年代	件数	割合
10代以下	113	1.8%
20代	785	12.4%
30代	760	12.0%
40代	896	14.1%
50代	1064	16.8%
60代	641	10.1%
70代以上	230	3.6%
無回答	1844	29.1%
合計	6333	100.0%

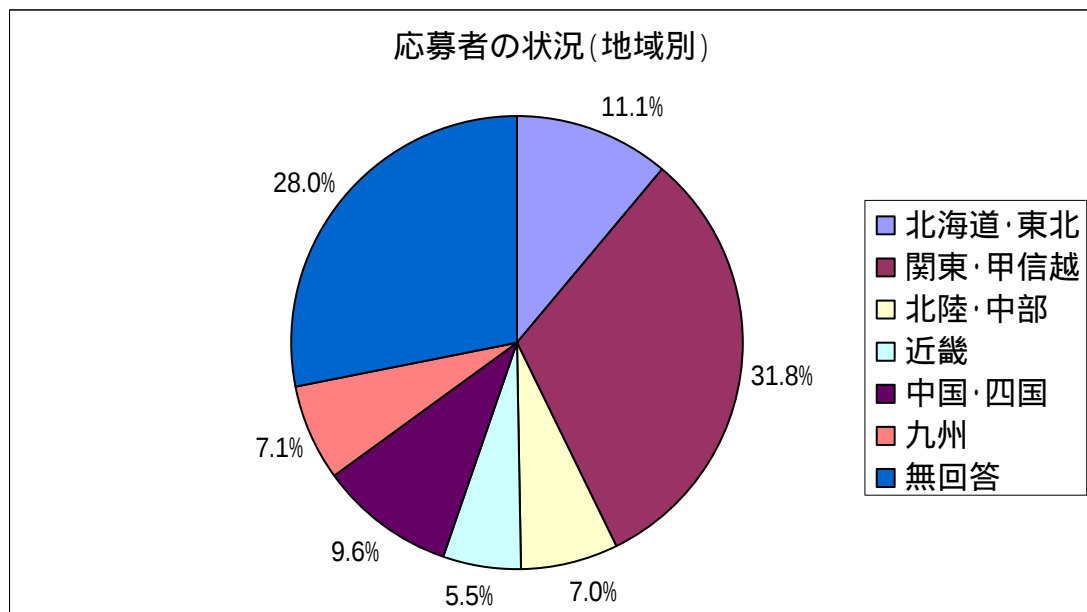


3) 地域別

地域別に見ると、関東・甲信越地方が 2,014 件(31.8%)で最も多く、以下、北海道・東北地方が 701 件(11.1%)、中国・四国地方が 605 件(9.6%)と続いている。

3) 応募者の状況(地域別)

地域	件数	割合
北海道・東北	701	11.1%
関東・甲信越	2014	31.8%
北陸・中部	442	7.0%
近畿	351	5.5%
中国・四国	605	9.6%
九州	448	7.1%
無回答	1772	28.0%
合計	6333	100.0%



「痴呆」という言葉についてどう考えるか

「痴呆」という言葉についてどのように考えるか、

(1) 一般的な用語や行政用語として使われる場合、

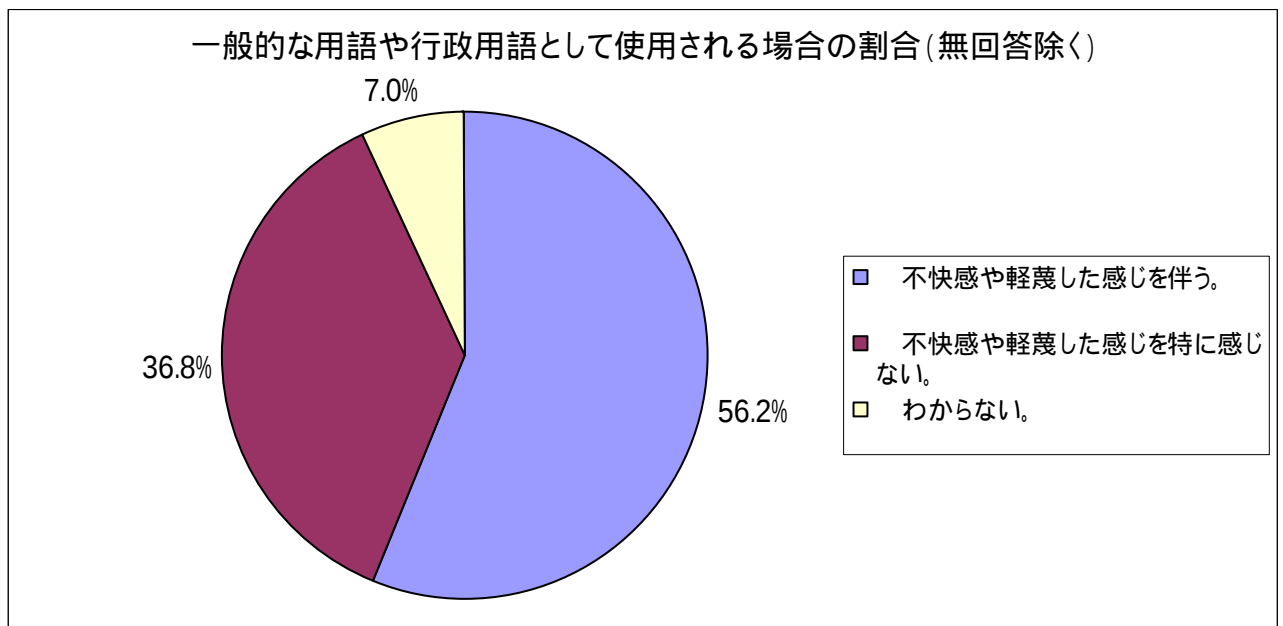
(2) 医療の場面で使われる場合

の2つについて尋ねたところ、(1)の場合「不快感や軽蔑した感じを伴う」と答えたのが2,988件(56.2%)と、「不快感や軽蔑した感じを特に感じない」の1,955件(36.8%)に大きく差をつけている。

一方、(2)の場合、「不快感や軽蔑した感じを伴う」と「不快感や軽蔑した感じを特に感じない」の差は(1)ほど大きくなかった。

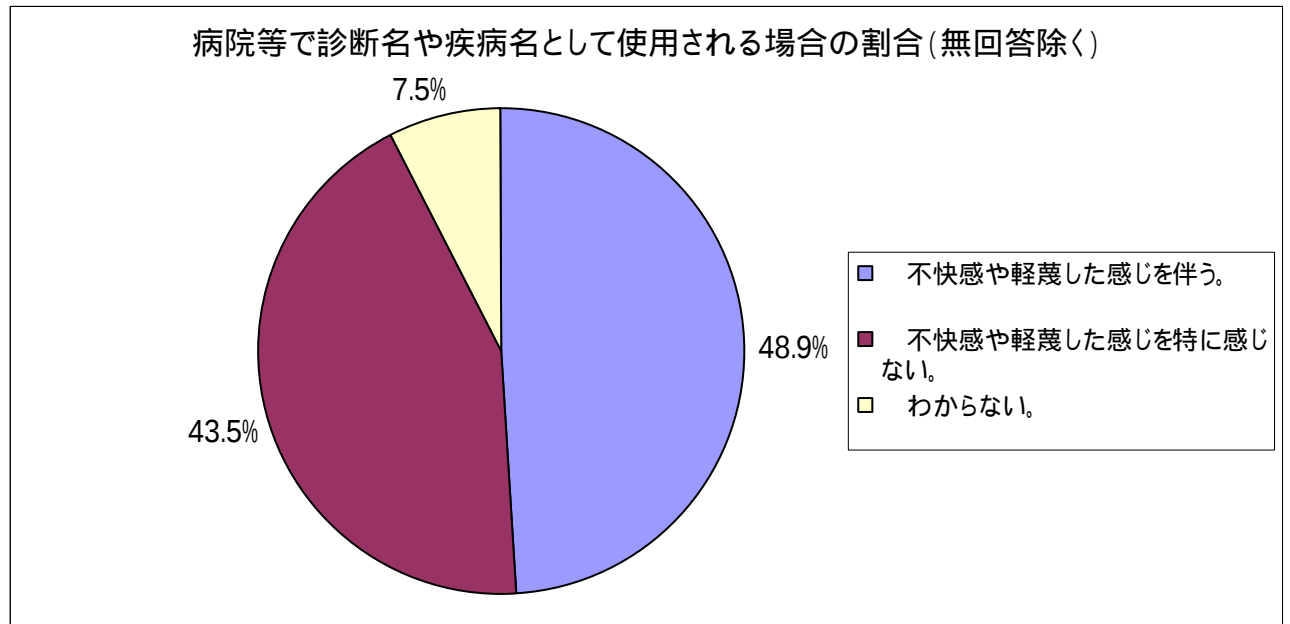
(1) 一般的な用語や行政用語として使用される場合

回答	件数	割合(無回答除く)
不快感や軽蔑した感じを伴う。	2988	56.2%
不快感や軽蔑した感じを特に感じない。	1955	36.8%
わからない。	371	7.0%
無回答	1019	
合計	6333	100.0%



(2) 病院等で診断名や疾病名として使用される場合

回答	件数	割合(無回答除く)
不快感や軽蔑した感を伴う。	2583	48.9%
不快感や軽蔑した感を特に感じない。	2298	43.5%
わからない。	397	7.5%
無回答	1055	
合計	6333	100.0%



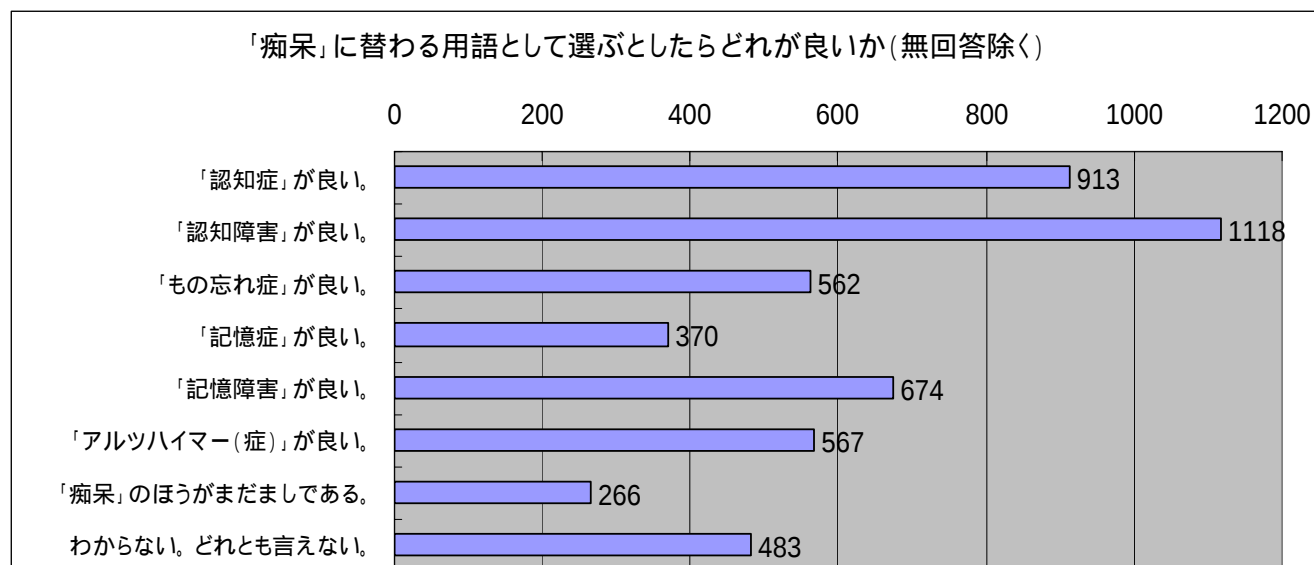
「痴呆」に替わる用語としてどれが良いか

「痴呆」に替わる用語として、「認知症」、「認知障害」、「もの忘れ症」、「記憶症」、「記憶障害」、「アルツハイマー（症）」の6つを示して回答を求めたところ、「認知障害」(1,118件)が最も多く、以下、「認知症」(913件)「記憶障害」(674件)の順であった。

さらに、「認知」系と「記憶」系を比較すると、「認知」系が2,031件(41.0%)に対し、「記憶」系は1,606件(32.4%)であった。

「痴呆」に替わる用語として、6つの候補から選ぶとしたら、どれが一番良いとお考えですか。

回答	件数	割合(無回答除く)
「認知症」が良い。	913	18.4%
「認知障害」が良い。	1118	22.6%
「もの忘れ症」が良い。	562	11.3%
「記憶症」が良い。	370	7.5%
「記憶障害」が良い。	674	13.6%
「アルツハイマー(症)」が良い。	567	11.4%
「痴呆」のほうがまだましである。	266	5.4%
わからない。どれとも言えない。	483	9.8%
無回答	1380	
合計	6333	100.0%



自由意見について

6つの候補以外に自由意見を求めたところ、別紙のと通りの回答が寄せられた。

一方で、「言葉を替えるより、痴呆に関する正しい知識をもっと広めるべき」という意見も数多く寄せられた。

認知症・認知障害グループ

○「認知症」の前後に言葉を加えたもの

生活認知症	3件
不認知症	2件
認知症候群	2件
知的認知症	
老年性認知症	
老年期認知症	
老人性認知症	
加齢性認知症	
高齢認知症	
失認知症	
低認知症	
脳縮認知症	

○「認知」と「症」の間に言葉を加えたもの

<u>認知失調症</u>	
(後天性認知失調症)	7件
認知低下症	
(後天的認知低下症)	6件
認知記憶症	
(認知・記憶症)	5件
認知不全症	5件
認知機能低下症	
(認知機能低下症候群)	4件
認知機能症	3件
認知能力低下症	2件
認知衰弱症	2件
認知適応症	2件
認知喪失症	2件
老人性認知力低下症	
認知機能後退症	
認知能力症	
認知不適症	
認知後退症	
認知後遺症	
認知乖離症	
認知欠乏症	
認知忘れ症	
認知変化症	
認知・見当識症(障害)	
認知困難症	
認知困難症候群	

○「認知障害」の前後に言葉を加えたもの

老年性認知障害	3件
後天性認知障害	3件
認知障害症	2件
加齢性認知障害	2件
加齢期認知障害	
老齢性認知障害	
高齢者認知障害	
高齢期認知障害	
成人期認知障害	
広汎性認知障害	
複合的認知障害症候群	

○「認知」と「障害」の間に言葉を加えたもの

<u>認知記憶障害</u>	
(認知・記憶障害)	15件
認知機能障害	3件
認知・記憶障害症	
加齢による脳器質性認知記憶障害	
認知記憶分野障害	
脳萎縮性認知機能障害	
認知的生活障害	
認知判断障害	
認知行動障害症	

○「認知～」、他

認知不全	2件
認知失調	2件
認知適応失調	
認知疾患	
認知万全	
にんち症	
認知障がい	

記憶症・記憶障害グループ

- 「記憶症」の前後に言葉を加えたもの

加齢記憶症	
弱体記憶症	

- 「記憶」と「症」の間に言葉を加えたもの

記憶低下症	6件
記憶喪失症	4件
記憶忘れ症	3件
記憶機能症	2件
記憶忘失症	2件
記憶後退症	2件
記憶力低下症	
記憶途上症	
記憶拘束症	
記憶中断症	
記憶減症	
記憶衰症	
記憶失調症	
記憶失語症	
記憶欠損症	
記憶乖離症	
記憶不良症	
記憶弊害症	
記憶不安症	
記憶混合症	
老人性記憶うすれ症	
記憶迷想症候群	
記憶退化症候群	

- 「記憶障害」の前後に言葉を加えたもの

加齢性記憶障害
後天性記憶障害
後天的記憶障害
行動性記憶障害
高齡期記憶障害
若年性記憶障害
進行性記憶障害
日常記憶障害
脳記憶障害
老人性記憶障害

- 「記憶」と「障害」の間に言葉を加えたもの

記憶保持障害
記憶保持表出障害
記憶性障害
記憶・認識障害

- 「記憶～」、他

メモリーケア	11件
記憶低下	
記憶力低下	
加齢性記憶力低下	
記憶不全	
記憶失調	
記憶想起失調	
進行性記憶失調	
記憶疾患	
未記憶症状(障害)	
記憶泥棒	
稀憶症	
記障	
老年期記銘力障害	
記銘力低下症	
記銘障害	
記銘見当識障害	
記憶回路ルーザー	
メモリバランス症候群	
追憶症	
メモリーシック	
メモリーブラインド症候群	

もの忘れ症グループ

○「忘れ」が入るもの

物忘れ症	
物忘れ症候群	
物忘れ病	
物忘れ朗人	
もの忘れ症候群	
もの忘れ症候群	
強度もの忘れ症	2件
重度もの忘れ症	
高齢者物忘れ症	
わすれ症	2件
忘れ症	3件
忘れ病	
うつ忘れ症	
ミニ忘れた症	
みやこ忘れ症	
わすれんぼ症	
忘れんぼ症	
忘れな草	
わすれんぼさん	

○「忘」が入るもの

健忘症	13件
進行性健忘症	2件
健忘障害	2件
健忘性生活失調症	
加齢性健忘症	
老人性健忘症	
忘却症	8件
忘却障害	
忘却症候群	
忘却夢	
健知忘却症	
記忘症	5件
多忘症	2件
知忘症	2件
忘我症	
覚忘症	
過忘症	
現忘症	
脱忘症	
智忘症	
年忘症	
忘易症	
忘覚症	
忘我傾向症	
忘失症	
忘知症状(障害)	
忘認症	
老忘症	
自忘症	

夢・恍惚グループ

○「恍惚」

恍惚症	3件
恍惚症候群	
老人性恍惚症	
恍惚	2件
恍忘症	
恍気症	

○「夢」

夢現症	
夢想症	
夢香症	
夢見症	
ドリームシック	
ケアードリーム症	
時空自在症候群	
夢中症	

脳グループ

○「脳～症」

脳老化症	4件
老脳症	
老惱症	
脳萎縮症	3件
(進行性)脳萎縮症	
加齢脳縮症	
脳機能低下症	2件
老人性脳機能低下症	
加齢性脳変化症	
器脳症	
失脳症	
純脳症	
頭脳症	
脳衰症	
脳間隙症	
記憶脳症	
脳休症	
脳減退症	
脳心症	
脳喪失症	
脳退化症候群	
脳動脈硬化症	
脳眠症	
脳休症	
変性脳症	
慢性脳症候群	
シルバー脳症	
スポンジ脳殻症候群	
高齢者頭脳幼稚化症候群	
脳機能不全症候群	
脳後退空洞化症	

○「脳～障害」

脳機能障害	3件
老人性脳機能障害	
脳障害	
老年性脳障害	
脳障害症	
脳忘障害	
脳老障害	
脳生障害	
脳血管障害	
脳血管性生活障害	
脳潤滑障害	
頭脳忘却障害	
(進行性)脳萎縮障害	
加齢性高次脳機能障害	
後天性脳器質障害	

○「脳～」、他

脳機能低下
ブレインシック

ちほう・ぼけグループ

○「ちほう」の読みはそのまま

ちほう	7件
ちほう症	3件
チホウ	3件
知豊	2件
痴ほう	2件
知ほう症	
知保症	
智保症	
知抱	
知抱性	
知包	
馳豊	
稚胞	
治包	
痴呆障害	
老人性痴呆障害	

○「ぼけ」

ぼけ	2件
ボケ	4件
呆け	
呆気	
呆け症(ほうけしょう)	

ディメンシア・アルツハイマーグループ

○「ディメンシア」

ディメンチア	3件
ディメンシア	3件
デメンチア	2件
デメンシア	
デメンツ	
D S (Dementia Senile)	

○「アルツハイマー」

アル	
AH症(アルツとハイマーの頭文字)	
アルツ	

生活・社会障害グループ

○「生活～」

生活障害	3件
生活障害症	4件
生活適応障害	
生活機能障害	
生活機能失調症	
生活機能困惑	
生活困難症	
生活動作困難	
生活判断困難症	

○「社会～」、他

社会生活能力障害	
社会生活適応障害	
社会遅延症	
環境適応障害	
環境不適症	
環境不安症	
適応障害	2件
関係障害	2件
不適応症	

老化・加齢グループ

高齢障害	3件	MIST AGE(ミストエイジ)
高齢(者)障害		アダルト神経症
高齢症	2件	おとしより症候群
高令症		高齢ハツラツ症
加齢症	2件	後生産年齢症候群
加齢症候群		実年昏惑症
加齢障害	2件	シルバーケアー症
加齢性障害		シルバーホワイト症
加齢による行動障害		ねんりん症
老年期障害	2件	老人力
老齡症	2件	老由由
年齢的障害		
老年期症		
老年期		
老年期不適應症		
老年性自己喪失症		
老年性変性症		
老年低下症		
依存性老過症		
老過症		
老考症		
老健症		
老人症		
老呆症		
失老症		
早期老人症		

知能・感覚・思考グループ

知衰症	2件	認識障害	2件
知能低下症	2件	認識機能障害	
知覚症		認識力低下症	
知覚障害		難識症	
知覚後退症		現状認識困難症	
知識障害		見当識障害	
知壊症		失見当識症	
知欠症		認疾	2件
知損症		認識遊走	
知的退化症		識欠	
知情意低下症		意識障害	
知的衰弱		意識不全	
知的退行		枯識症	
知的能力障害		非認症	
後天性知的能力低下症		遊識症	
知能障害		遊走認識	
知力障害		失認症	
知力喪失		失認症候群	
後天知能症		失我症	
広汎性知的障害		失智症	
高齢知的障害		失念症	
知恵薄れ(症候群)		不安失念症	
知熟		神経劣化症	
暗知症		心的空白症	
判断障害		心的衰弱症	
判断不全症		性格依存症	
判断力低下症		自己受容症	
判別困難症		自己受容障害	
判別障害		自立失調症	
精神恐怖症		A R O S (Acquired Recognition	
精神的能力の不可逆的喪失		Obstacle Syndrome)	
精神病		CI (Cognitive Impediment)	
精神離脱症		英知エイク	
精神老化症		言語機能自立性失調症	
自覚失調症		見当症	
思覚障害		セラピ神経病	
思覚失調		統合障害	
思覚変調		表意障害	
思覚調整障害		没我傾向症	
思考症		マインドキュア	
意思伝達障害		マインドシック	
思慮障害		未認承	
想起消耗症		無覚症	
		緩知症	

子ども返り・たそがれグループ

○子ども返り

回帰症	3件
回帰症状	
懐古症	2件
懐古性生活障害	
後退症	2件
後退型(症)	
退行症	2件
あどけな症	
イノセンスキープ症	
今も昔病	
エンゼル症	
幼還り	
思い出がえり	
思い出返り症	
還児	
還戻	
帰齡症	
子がえり症	
子どもどり症	
里心症	
児湧症	
タイムトラベラー	
稚老症	
童夢症	
還幼	
還齡症	
幼稚症	
リターンチャイルド	
若がえり症候	
童がえり症	
わらべがえり	

○たそがれ

たそがれ症	4件
黄昏症	2件
黄昏病	
現代黄昏症	
薄暮症	
落葉症	

その他

うっかり症	3件	心配・不安症
うっかり病		神秘症
B S S (Body Surroundings Sentiment)障害		ストップ症
C H症状		スマイル症
L V (Long Vacation)		セピア症候群
ありがとう症		喪失症
アルファー症(障害)		尊厳症
あんただーれ症		体機能不整伝心症
アンチリズム症		高砂
イエロー症候群		宝持症
いずれ病		中核症
宇宙症		手助必要症
疎意症		伝達遅れ症
オトボケ症		独立症
衰能症		どなた症
覚束病		とぼけ症
お役残りさん		ナチュラル症
介護症		人間代弁症
覚惜(症)		望まぬ証
蜻蛉		ひだまり症
かすみ(霞)症		微風症
神笑		ブランク症(障害)
軽頭		変性症
喜怒哀楽症		ぼちぼち行きま症
気不全症		ぽっかり症
雲表		奔放症
クラッシュバック症		昧神
苦労症		まだら症
幸うつ症		眠我
高次障害		迷路症
肯定奨励症		モアモア症
幸福症		戻りし中へ
抗骨		もやもや病
ココロ		やすらぎ症
心添症		悠向症
寿老人		ゆらぎ
桜化		ゆるぎ
シグナル行動		要援護症
自然症		楽生症
自脱症		レインボー「虹」症候
失健症		わたぐも症
自迷症		笑気症
自由症		笑小症
しろう症		ワンオブライフ症
人格疲労症		

(参考)

「痴呆」に替わる用語に関するご意見の募集について

平成16年9月13日
厚生労働省老健局

趣 旨

厚生労働省では、「痴呆」という用語には侮蔑的な意味合いが含まれていること等から、これに替わる用語を検討するとともに、併せて、「痴呆」に係る誤解や偏見をなくす一助となることを目的として、[『「痴呆」に替わる用語に関する検討会』](#)を設置し、検討を進めています。

「痴呆」に替わる用語については、広く国民や関係者の方々のご意見やお考えを伺いながら結論を得ていくべきものとの考えから、ご意見等を募集いたします。

皆様方からいただいたご意見等については、『「痴呆」に替わる用語に関する検討会』での議論において活用させていただきます。

これまでの検討会での検討状況

『「痴呆」に替わる用語に関する検討会』では、これまで用語変更の必要性や新しい用語の要件などについて議論されてきました。議論の結果、整理された内容を紹介します。

(1) 痴呆という用語の変更の必要性

高齢者の尊厳に欠く表現であること。

「痴」には「おろかなこと、ばか」という意味があり、また、「呆」には「おろかなこと、あきれる、あっけにとられる」という意味がある。「痴呆」という用語そのものは、「あほう」という意味から由来しており、「痴呆」と呼ばれる高齢者に対する尊厳やいたわりを欠く表現である。

また、当事者本人や家族にとっては苦痛を感じたり、より一層不安にさせられる表現である。

さらに、介護の現場においては、本人なりの生活の仕方や潜在する能力を極力大切にし、本人の人格を尊重してその人らしさを支えることを基本とする方向で取り組みが進んできており、こうした新しい「痴呆ケア」の基本的な理念になじまない表現である。

< 「痴呆」という用語について >

おろかなこと。

精神病理学で、獲得した社会生活を営むために必要な精神的能力が、持続的・本質的に失われる状態をいう。

< 「痴」という文字について >

- 物事を考え判断する力がたりないこと。おろかなこと。ばか。あほう。しれもの。

< 「呆」という文字について >

- おろか。あきれる。

(日本国語大辞典(第2版)(小学館))

「痴呆」の状態や症状について、誤解を招く表現であること。

「痴呆」という用語は、「痴呆」になると「なにもわからない」、「なにもできない」状態になるという誤解を生じさせる一因となっている。こうした誤解があるために、本人が抱えている不安や焦りの気持ちを周囲が理解することの妨げとなっており、本人ができることまで周囲がやっけてしまい本人の能力を更に低下させることにつながっている。

痴呆の診断や予防が進みにくいという弊害があること。

「痴呆」という用語は、「痴呆」と判断されることに対する恐怖心や恥ずかしさを感じさせ、このことが痴呆の早期診断や痴呆予防教室への参加が進まない一因となっている。

(2) 代替用語の要件について

不快感や侮蔑感を感じさせたり、気持ちを暗くさせたりしないこと。

一般の人々にわかりやすく、できれば短いこと。

「痴呆」と同一の概念をあらわすものであることについて疑義を生じさせず、混乱なく通用すること。

なお、「痴呆」の内容を正確にあらわし、他の疾病や状態と明確に区別できることは望ましいことではあるが、**ないし** のメリットのためには、正確性はある程度犠牲にされてもやむを得ないこと。

ご意見募集

1 「痴呆」という用語について、どのようにお考え、またはお感じですか。(1) (2) それぞれの場合についておたずねします。

(1) 一般的な用語や行政用語として使用される場合

不快感や軽蔑した感を伴う。

不快感や軽蔑した感を特に感じない。

わからない。

(2) 病院等で診断名や疾病名として使用される場合

不快感や軽蔑した感を伴う。

不快感や軽蔑した感を特に感じない。

わからない。

2 上記1の(1) (2)のいずれかまたは両方で、 を選んだ方にお伺いします。

(1) 「痴呆」に替わる用語として、「認知症」、「認知障害」、「もの忘れ症」、「記憶症」、「記憶障害」、「アルツハイマー(症)」の中から選ぶとしたら、どれが一番良いとお考えですか。下記の[考え方・理由]の記述もご参考にしていただきながら、お一つお選び下さい。

「認知症」が良い。

「認知障害」が良い。

「もの忘れ症」が良い。

「記憶症」が良い。

「記憶障害」が良い。

「アルツハイマー(症)」が良い。

「痴呆」の方がまだましである。

わからない。どれとも言えない。

[考え方・理由]

「認知症」

痴呆の本質を端的に表現すると、「認知障害により、社会生活や職業上の機能に支障をきたす状態・症状」ということになる。

(注)「認知」とは、記憶や認識、理解、思考、判断、言語といった人の持つ知的能力を幅広く指す学術用語。

こうした痴呆の本質に着目した案であり、症状や生活障害の多様性を含意している。「症」の字を用いることにより、痴呆が単なる加齢現象ではなく病気の種類であることも表現できる。

「認知障害」

と同様に痴呆の本質(認知障害)に着目した案。認知機能が「低下」した状況をとらえて、「障害」と表記した。

「もの忘れ症」

痴呆の本質は認知障害であるが、その際に記憶障害を必ず伴うことを特徴としており、この点に着目した案。記憶機能が低下することを和語(やまと言葉)を用いて表現した。「症」の字を用いることにより、痴呆が病気であることも表現できる。

「記憶症」

と同様に、痴呆症状の特徴(記憶障害を必ず伴うこと)に着目した案。「記憶」をそのまま使用。「症」の字を用いることにより、痴呆が病気であることも表現できる。

「記憶障害」

と同様に、痴呆症状の特徴(記憶障害を必ず伴うこと)に着目した案。「記憶」をそのまま使用。記憶機能が「低下」した状況をとらえて、「障害」と表記した。

「アルツハイマー(症)」

痴呆は、その原因によりいくつかのタイプに分類できるが、最も多いタイプは「アルツハイマー型痴呆」である。「アルツハイマー」とは、この病気を発見・報告したドイツの学者の名前であり、この人名をそのまま用語として用いる案。国際的に通用しやすい。語尾に「症」をつける案もありうる。

(2) 上記の候補以外に、「痴呆」に替わる良い用語のお考えがありましたら、ご記入願います。

()

提出先

(1) 電子メールの場合

アドレス tihouyougo@mhlw.go.jp

テキスト形式、又はファイルを添付する場合は、Word (2000年版以前のバージョン)、一太郎 (バージョン 11 以前のバージョン) のいずれかによりお願いいたします。

(2) 郵便の場合

〒 100 - 8916

厚生労働省 老健局 痴呆対策推進室 あて

(3) F A X の場合

03 - 3595 - 3670

厚生労働省 老健局 痴呆対策推進室 あて

(4) 意見の提出上の注意

ご意見は、日本語でお願いします。

ご意見には、必ず『**痴呆に替わる用語に関する意見**』と明記してください。

個人の場合は、氏名、性別、年齢、住所を記載してください。

法人の場合は、法人名、所在地、担当者名を記載してください。

電話でのご意見は、お受けできませんのでご了承願います。

(参考) ご意見のスタイル例

『痴呆に替わる用語に関する意見』

1 (1) → ~ のうち 1 つ

1 (2) → ~ のうち 1 つ

2 (1) → ~ のうち 1 つ

2 (2) → 「痴呆」に替わる良い用語のお考え
がありましたら、ご記入願います。

上記の用語のお考え（理由）を簡潔
にご記入願います。

（注）氏名、性別、年齢、住所を記載してください。

意見の提出締切日

平成16年10月29日（金）（必着）

その他

『「痴呆」に替わる用語に関する検討会』において配布した資料等は厚生労働省ホームページ「<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2004/06/s0621-5.html>」から入手できます。

（参考）

「痴呆」に替わる用語に関する検討会員名簿

（五十音順・敬称略）

氏 名	役 職
井 部 俊 子	聖路加看護大学長
高 久 史 麿	自治医科大学長・日本医学会長
高 島 俊 男	エッセイスト
辰 濃 和 男	日本エッセイスト・クラブ専務理事
野 中 博	日本医師会常任理事
長谷川 和 夫	高齢者痴呆介護研究・研修東京センター長 聖マリアンナ医科大学理事長
堀 田 力	さわやか福祉財団理事長

（注）：座長

厚生労働省老健局計画課
痴呆対策推進室痴呆対策係
（内線）3868・3869